

# 小澤 盛生（国土交通省 水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長）

## ■主な経歴（主に水局関係を抜粋）

H15.4 入省（北陸地方整備局 港湾空港部 港湾計画課）	
H21.4 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 海岸課長	宮崎海岸の計画づくり、住民との合意形成
H27.7 本省防災課 災害対策室 課長補佐	災害時の初動対応、防災教育
H29.7 本省河川計画課 河川計画調整室企画専門官	気候変動の影響を河川計画に反映する手法検討（学との連携）
R02.7 本省河川環境課 流水管理室 企画専門官	利水ダム等の事前放流、治水ダム等の水力発電強化（利水者との連携）
R05.4 本省河川計画課 河川技術調整官	TCFDを踏まえた対応支援（企業連携）
R06.4 本省河川計画課 河川計画調整室長	河川整備基本方針、河川整備計画の策定

## ■流域治水を浸透させるためのアイデア、市民や自治体はその気になるために大切なこと

### ○様々な主体（国、市町村、住民、企業、学）との相互理解（一人一人がファシリテータ）

- ・ お互いの考えや立場の理解（相手のことは無知、誤解があるのが普通）
- ・ 客観的な世の中目線での全体の俯瞰（≠専門力）

### ○様々な主体の相互理解を支える見える化、単純化（一人一人が発信者）

（例）

- ・ 住民に求める行動変容や科学技術の知見の見える化、単純化
- ・ 流域での貯留や高台まちづくりなどの効果の見える化

#### <知の統合>

○様々な分野の科学的な知、地域に根付く知を繋ぐ「知の統合」を行うことが大事である。我々は知の統合をやっている。

#### <ファシリテータ>

○知の統合にも、統合された知を社会に反映していくにも「ファシリテータ」が必要であり、我々自身が「ファシリテータ」である。  
○全体を包括的に見ないといけない、一側面だけを見ていたら駄目であることを学び、見える化しないと共有できないことも分かりました。

# 様々な主体(国、市町村、住民、企業、学)との相互理解 ～宮崎海岸における侵食対策事業の合意形成を担当した経験から～

## ■ 砂浜が消失し、道路に迫る海岸線



## ■ 美しい砂浜



## ■ 直轄事業化した当時の海岸の事業計画



## ■ ステークホルダーと関心事項

- ・ 地元住民 : 住居、道路
- ・ 漁業者 : 漁業
- ・ サーファー : 砂浜、サーフィン
- ・ カメ愛好家 : アカウミガメの産卵

## ■ 背景

- ・ 行政への不信
- ・ 公共事業への不信
- ・ コンクリートへのアレルギー  
(護岸、消波ブロック)

# 様々な主体(国、市町村、住民、企業、学)との相互理解 ～宮崎海岸における侵食対策事業の合意形成を担当した経験から～

宮崎海岸市民談議所における各主体の役割

## ①事業主体

市民からの多様な意見を反映した案(複数)を専門家に提示し、検討を依頼する。  
また、専門家からの助言をもとに、**責任ある意思決定をする。**

## ②市民

お互いを理解・尊重しながら**多様な意見を出し合い議論を深める。**

## ③専門家

事業主体からの案に対して、事業主体に**技術的・専門的な立場から助言する。**

## ④市民連携コーディネータ

市民からの多様な意見を取りまとめ、事業主体に伝える。  
また、事業主体が専門家に正確に伝えているか、専門家がきちんと検討しているか**中立・公正な立場からチェックする。**

専門家でない人でも議論できる環境づくりが重要

世の中目線で全体を俯瞰する力が重要

※平成23年時点のメンバー

- 事業主体  
(国)宮崎河川国道事務所
- 関係機関(市民談議所に参加)  
(国)宮崎港湾・空港整備事務所  
(県)河川課、港湾課、自然環境課、漁村振興課、農村整備課  
(市)土木課
- 市民(市民談議所に参加)  
以下などに関心の皆様  
・住居の安全、道路の維持  
・砂浜、アカウミガメ、サーフィン
- 技術分科会委員  
佐藤 慎司 東京大学大学院工学系研究科  
諏訪 義雄 国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室長  
西 隆一郎 鹿児島大学水産学部水産学科教授  
松田 博貴 熊本大学大学院自然科学研究科教授  
村上 啓介 宮崎大学工学部社会環境システム工学科准教授
- 市民連携コーディネータ  
吉武 哲信  
宮崎大学工学部 社会環境 システム工学科准教授

様々な立場の市民や関係行政機関、ファシリテータによる議論  
(宮崎海岸市民談議所) ※平成21年4月～



市民意見を確認する専門家



市民と意見交換する専門家



国土交通省九州地方整備局が、国総研や大学等の協力を得て実現した全国初の砂袋詰め工法(サンドパック護岸)  
現地での試験施工⇒本格施工へ



国土技術政策総合研究所・ナカタ産業(株)・前田工機(株)・三井化学産業(株) 共同研究  
「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」

平成24年度～26年度に実施された共同研究の成果として、国土技術政策総合研究所(現国土交通省)と共同で「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」(報告書)を策定しました。  
本ページは「海岸保全における砂袋詰め工の性能評価技術に関する研究」の内部資料となります。

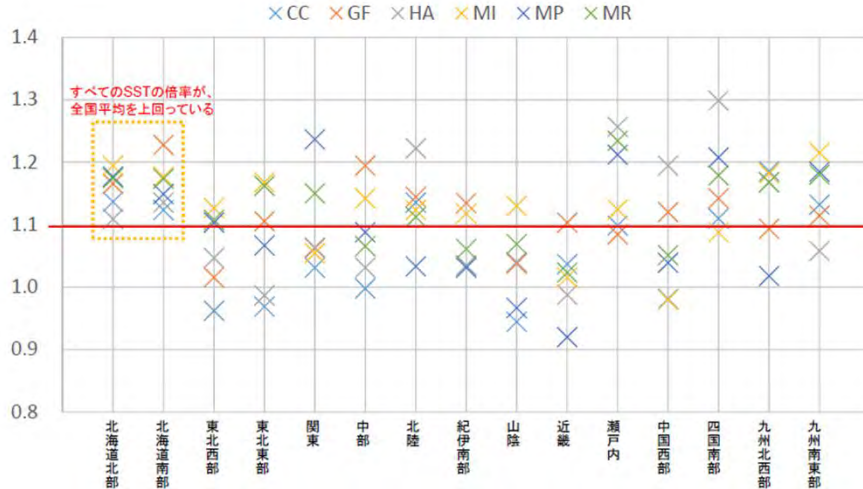


# 様々な主体の相互理解を支える見える化、単純化

～計画の合意形成、防災教育、利水ダム等の事前放流、TCFD対応支援などを担当した経験から～

## ■ 科学技術で得られた知見の社会実装を促すための「温暖化の影響の見える化、単純化」の例

d2PDFから算定した降雨量変化倍率(将来実験/過去実験)



単純化

一級水系における全国平均値

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

## ■ 住民の行動変容を促すための「水害で死に至るプロセスの見える化」の例

(解説)  
泥水で足下が見えないので、水路やマンホールに気づかずに落ちてしまうことがあるよ！  
⇒家の周りが水につかる前に安全な場所に逃げよう！

(解説)  
ドアの外に30cm水がたまると、ドアが開かなくなってしまうよ！  
⇒川があふれる前に安全な場所に逃げよう！



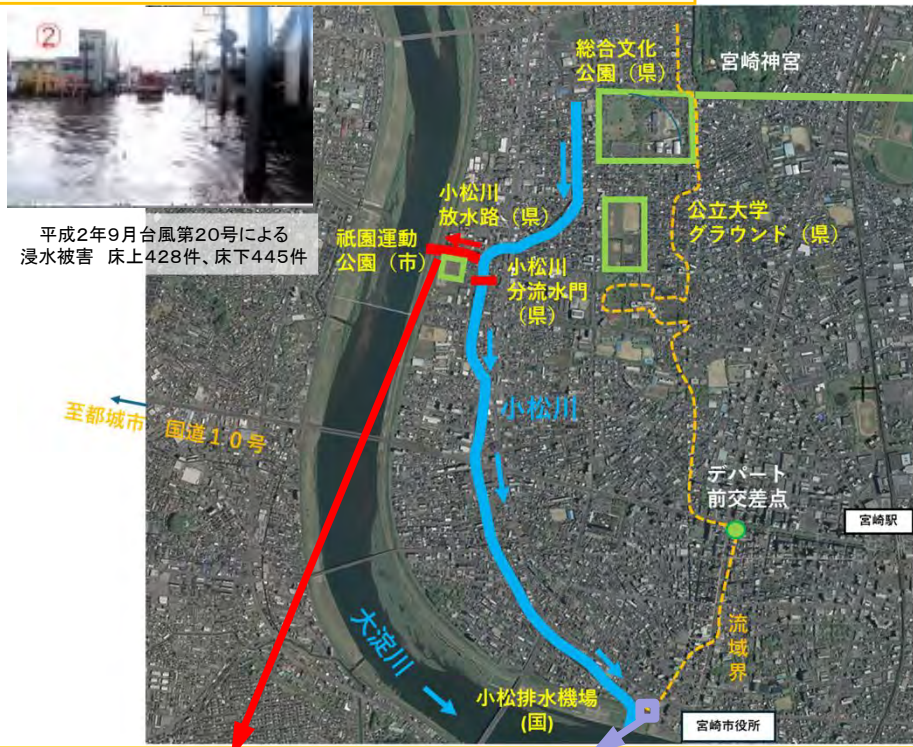
# 様々な主体の相互理解を支える見える化、単純化

## ～市街部での貯留施設の整備、貯留の目的の見える化(宮崎県総合文化公園の事例)～

大淀川水系の  
河川整備基本方針の  
審議資料を一部編集

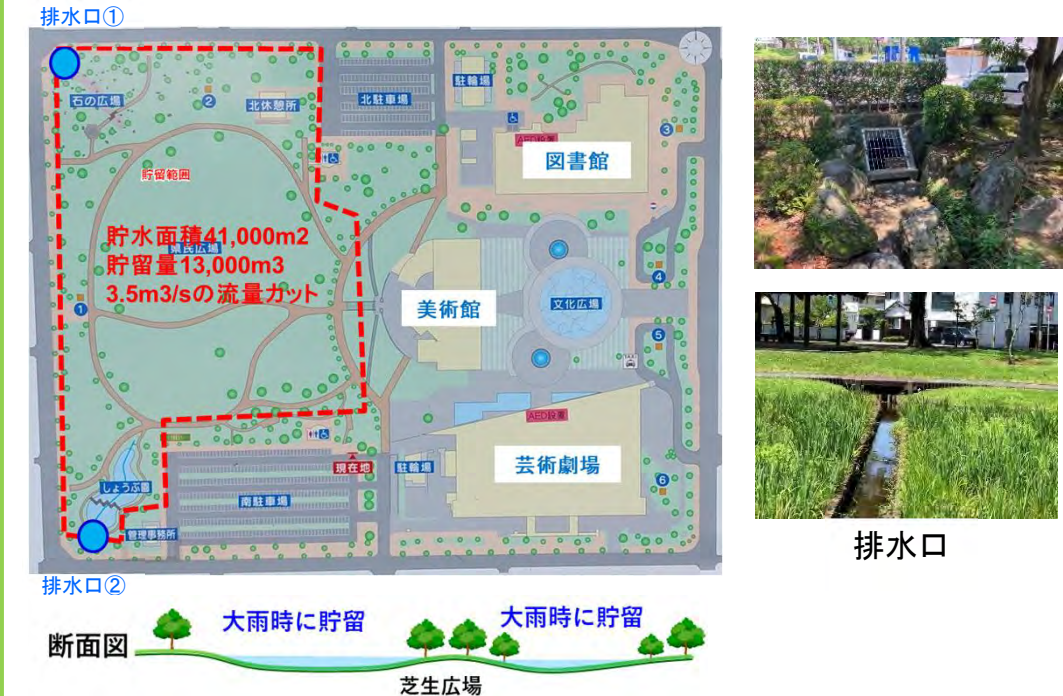
- 宮崎市の市街部の家屋や事業所などが集中する地域を流下する大淀川水系小松川の流域では、度々浸水被害が発生している。
- 市街化が進展していることから、河道拡幅などによる対応が困難であるため、九州地方整備局、宮崎県、宮崎市が連携し、浸水被害の軽減に取り組んでいる。
- 具体的には、宮崎県による小松川の河道掘削、放水路の整備、九州地方整備局による排水機場の整備に加えて、宮崎県、宮崎市が、公園等における流出抑制対策を実施するなど、関係機関が連携して浸水被害の軽減に取り組んでいる。

### 小松川流域における浸水対策(九州地方整備局・宮崎県・宮崎市)



### 宮崎県総合文化公園での流出抑制(宮崎県)

- すり鉢状に整備した公園に雨水を貯留し、2箇所ある公園の排水口からゆっくり排水することで、周辺市街部の内水被害を軽減している。



排水口

### 小松川放水路(宮崎県)



小松川から大淀川に分派することで流量を低減

### 小松排水機場(九州地方整備局)



排水ポンプ施設を整備(15m<sup>3</sup>/s)

平常時



大雨時の貯留状況

